

感動一点の場

『無題』

1978年 小川原 脩 画



少し離れた場所からじっとこちらを見ているエゾシカと、北国の大地に根を張る白い樹が描かれた作品です。節くれ立つ手のような形状の枝が、風雪に耐え曲がりながら上へと伸び強い生命力を感じます。白い樹の奥には多くの野生動物が息する森が広がり、うっそうとした原生林に生きる動物たちの気配が伝わってくるようです。

小川原脩は1970年代、馬・白鳥・犬をモチーフにして社会への反抗や孤独感、悲哀の情感を表現した作品を多く描いています。エゾシカをモチーフにした作品の数は少なかったようですが、画面に描かれたエゾシカの静かな佇まいと穏やかな姿態は、北国で共に生きる動物を思いやる小川原の心情そのものかもしれません。

エゾシカは北海道の開拓が始まってから、乱獲や生息地の破壊により絶滅寸前にまで数を減らしましたが、禁猟や駆除を繰り返し、1990年には個体数が劇的に増加しました。今では倶知安町でもエゾシカの生息数が増え、事故や食害の問題になっています。目の前に突然エゾシカが現れたら穏やかな気持ちではいられませんが、人間の生活圏に足を踏み入れたシカも同じように驚き戸惑っているように思えるのです。

文：金澤 逸子（小川原脩記念美術館 学芸スタッフ）

ふるさと探訪

501回

倶知安の記念碑－倶知安、小学校発祥旧跡地碑

現在の倶知安神社境内の丘の下に1896（明治29）年9月11日、「倶知安尋常小学校」が開校しました。倶知安で最初の小学校です。

倶知安の開拓は、この4年前の1892（明治25）年に始まりました。年を追うごとに本格的になると、子どもを連れた家族での入植者も増加します。しかし、開拓が始まって間もないこの頃にまだ学校はなく、子どもの教育をどうするかが次第に問題になっていきます。

1895（明治28）年には、豊岡のマッチ軸工場「縫部製軸所」に従業員の子どもに読み書きを教える小さな私塾が作られましたが、翌年の1896年に入植者の戸数が780戸にまで増えると、いよいよ公的な学校建設の機運が高まります。

これを受けて役場では同年2月に「小学校設置の議」を決定。雪が解けると校舎建設に取り掛かり、9月11日に最初の小学校「倶知安尋常小学校」が開校します。校長にはマッチ軸工場の私塾で教えていた上田甚助氏が就任しました。なお、このときの建設費用210円のうち160円は住民の寄付によるものでした。

今でも、倶知安神社の社務所北側には、校舎の基礎に使われた東石が「倶知安、小学校発祥旧跡地」の碑として残っています。

文：紺谷 貴之（倶知安風土館 学芸補助員）



展覧会のお知らせ

■第1展示室

開館25周年記念第66回麓彩会展

1958年、小川原脩をはじめとする8人の発起人により創設された「麓彩会」。倶知安にゆかりのある作家たちの近作を通じて、多彩な美術を紹介します。

会期：開催中～2月2日(日)

■第2展示室

林 雅治展「WORK 土でつくるもの」

京都府出身で町内在住の作家・林雅治さんの陶による造形作品を展示します。長年にわたり研究を重ねた豊かな作品世界をお楽しみください。

会期：開催中～4月13日(日)



アート・イベントのお知らせ

■ミュージアムコンサート

竹形貴之クラシックギターコンサート

千歳市在住のクラシックギター奏者・竹形貴之さんによるソロコンサート。ホワイトシーズンの午後、魅惑のひとときをお楽しみください。

出演：竹形貴之さん（クラシックギター）

日時：1月25日(土)14時～15時

会場：ロビー※予約不要・無料・当日先着70席

■美術館で「成人の日」記念撮影をしませんか

新成人の皆さん、家族・友人と一緒に、美術館で記念撮影をしませんか。晴れ着が映える美術館の空間を、撮影用に無料開放します。ぜひお立ち寄りください。

日時：1月11日(土)・12日(日)・13日(月・祝)

会場：ロビー、展示室（撮影できない作品もあります）

※「新成人です」と受付に伝えてください

■ロビー・ギャラリー

冬期間に「ロビー・ギャラリー」（町内や近隣町村で創作活動を行う作家・愛好家の展示）を開催します。会期・出品作家など、詳しくは町HPをご覧ください。

・佐藤毅展 開催中～1月24日(金)

・成清北斗展（倶知安観光協会主催）3月8日(土)～23日(日)

・小前なおみ展 3月24日(月)～4月13日(日)



◀ 町美術館のページはこちら

ミュージアム通信

小川原脩記念美術館 ☎ 21-4141

観覧料：一般 500円(400円)

高校生 300円(200円)

小中学生 100円(50円)

倶知安風土館 ☎ 22-6631

観覧料：一般 200円(100円)

高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は9時～17時

入館は16時30分まで

※（ ）内は10名以上の団体料金

1月の休館日 毎週火曜日、5日まで（年始）

★20日までは冬休み期間のため、小中学生・高校生は美術館観覧無料

九谷赤絵の極致

「ウラガン、あの壺をキシリア様に届けてくれよ！あれは、いいものだー！」

このセリフが分かる方は某有名SFアニメのファンだと思います。戦死する間際にこのセリフを叫んだマ・クベというキャラクターは、良い家柄の軍人で骨董品の収集家でもありましたが、実際に「いいもの」を集めるには収集品と保管場所にお金がかかる。では、お金も審美眼も心もとない私は一体どうすれば・・・

まずは良いものが集まっている場所に行ってみることに。そして昨年の夏、苫小牧市美術博物館にて表題の展示会を見てきました。九谷赤絵と呼ばれる、鮮やかで絢爛豪華な壺や鉢、大皿などが何点も並び、そのどれもが緻密で美しく、大変目の保養になりました。

さて次は「いいもの」を置ける床の間と、穴を開けていい壁を用意しなくては・・・

館長 福原秀和